

水木しげる氏

表紙絵

＝お～い、野川の夜桜見物に行くぞ～＝

表紙絵：水木しげる

- ・ 特集 おはなし会って楽しいよ！ 2～3
- ・ 平成27年度子どもの本に親しむ会 4～5
- ・ 図書館で活躍する！ボランティア紹介 6
- ・ 平成27年度利用者懇談会を開催しました／映画の図書展 7
- ・ 地域ゆかりの歴史・文化・伝統 8

特集

おはなし会って楽しいよ！

～心に残る本との出会いを願って～

市内の図書館全館で、おはなし会を実施しています。手遊び、わらべうたをまじえながら、子どもたちに絵本の読み聞かせやストーリーテリング（昔話などを覚えて絵を見せずに語ること）を行っています。今回の特集では、実際の様子をお伝えします。



1週間前…

おはなし会にむけて準備をします。

子どもたちの年齢・人数に合わせ、バランスに気を付けながら、紹介する本を選び、当日までに何度も練習します。

また、ポスターやチラシを作り、PRを行います。



当日…

午前中、近くの保育園のみなさんがやってきました！



午後は定例のおはなし会です。3歳～小学生対象です。



ほかにも…

★0・1・2歳のおはなし会



0・1・2歳の赤ちゃんと親子で参加するおはなし会です。絵本のほか、わらべうたや布の絵本なども取り入れ、ことばの響きやスキンシップをとおして、親子一緒に楽しめる工夫をしています。



★冬のスペシャルおはなし会



毎年1回、冬に行います。エプロンシアターや大型絵本、16mmフィルムの上映など、盛りだくさんのプログラムです。



ぜひ、お気軽にお越しください！

※各館のおはなし会開催予定は、図書館ホームページをご覧ください。

本当にあった おはなし会エピソード

- ・おはなし会の後、「りんごの人だ～」とお話に出てきたもので呼ばれました。
- ・簡単な手品をして見せたら「それは手品じゃない！工作だ！」とつつこまれてしまいました。
- ・「先週読んだ本を読んでほしい！」と同じ本を持ってきて、何度も聞きたがる子もいます。



新人職員 はじめてのおはなし会



はじめてのおはなし会の前は、とても緊張したのを覚えています。

経験を積むにつれて、少しずつ読む楽しさ、お話を共有する楽しさを感じられるようになりました。お話を読んでいて、「おもしろかった！」など、子どもたちから反応があった時、やりがいを感じます。

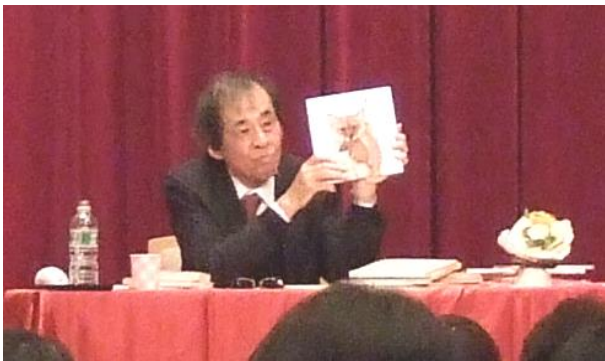
本を選ぶポイントや抑揚のつけ方など、先輩職員にアドバイスをもらいながら、日々練習を重ね、おはなし会に臨んでいます。

平成27年度 子どもの本に親しむ会 「赤ちゃんの時から絵本を」

講師 田中 ^{ひではる} 秀治氏

平成27年11月26日(木)、講演会「子どもの本に親しむ会」を開催しました。毎年、子どもの本に興味をお持ちの方に多数ご参加いただき、好評を得ています。今年度は、創刊20周年を迎えた福音館書店の月刊絵本『こどものとも0.1.2』初代編集長の田中秀治氏を講師にお迎えし、「赤ちゃんの時から絵本を」というテーマで講演していただきました。

講演の内容を一部紹介します。



・親子で絵本を楽しむことには、2つの意味がある。1つは親から子へ言葉を使って愛情を伝える場を作ること。もう1つは、子どもたちの感性や考える力を作り育てる助けになること。

・赤ちゃんが初めて発する言葉は、赤ちゃん自身が考えて発したものではない。赤ちゃんの周りの人がよく口にする言葉が、耳から入って蓄えられたものだ。赤ちゃんは自分がまだしゃべることのできないときでも、しっかり聞いていて、よく聞いた言葉から順にしゃべっている。また、話し始める時期は、10か月～1歳8か月で個人差があるため、心に余裕を持って子どもたちと接してあげてほしい。

・私たちはコミュニケーションをとるときはもちろんだが、自分の中で何かを考えたり想像したりするときも言葉を使っている。だから、子どもたちには言葉の大切さを知って、好きになって欲しいと思う。小さいときに言葉を楽しむ体験の一つに絵本がある。

・最近の子ども環境はあまりよくないようだ。多くの家庭で一日中テレビがついているせいか、親が子どもたちに何かを語りかける時間は非常に短くなってしまっている。テレビの言葉は一方通行だ。子どもたちがテレビを楽しんでいるように見えても、子どもたちの問いや動きにテレビは反応を返してはくれない。さらに、テレビから聞こえる言葉には、きれいではない言葉も多く含まれている。耳から言葉を蓄えている子どもたちが、このようなテレビの言葉ばかりを聞いていたら、その子の世界は一体どうなってしまうのだろうか心配になる。子どもたちにとって一番うれしいことは、親の気持ちが自分に向いていて、自分のために何かやってくれること。これはテレビでは絶対できない事だから、テレビを見せている時間に、ぜひ絵本を読んであげてほしい。

・具体的な絵本の選び方について。就学前の子どもたちは、これから自分が生きる世界について真剣に知ろうとしている時代だ。だから、子どもたちには甘い絵や言葉の本、大人の自己満足のような本ではなく、楽しみの中にも心や言葉を育てるようなちゃんとしたものを与えなければいけない。栄養を考えて食べ物を与えるように、心や言葉がしっかりと成長できるようなものを考えてあげてほしい。

・子どもたちが喜ぶ絵本は、まず、呼びかけやリズムのある本。例えば『くだもの』（平山和子さく 福音館書店）は、ごく自然に「さあ どうぞ。」という呼びかけの言葉が書かれていることで、読み手にとっても読みやすく、子どもたちにとってもまるで自分が「食べていいよ」と言われているように感じられる。『こどものとも0.1.2』の創刊号『でてこいでてこい』（はやしあきこさく 福音館書店）も、子どもたちは自分が呼びかけられているように感じる。初めの原稿では、毎ページ言葉が違ったが、編集の過程で、1歳くらいの子どもたちはまだそこまで言葉を知らないから、同じ言葉の繰り返しの方がいいのではないかということで、「でてこい でてこい」の繰り返しになった。このように、出てきた原稿を著者とのやり取りで少しずつ整え、最後には子どもたちのところに届けることが、編集の仕事だ。その他に、擬態語・擬音語の本も子どもたちに人気だ。

・絵本に慣れるに従って、色々な絵本を紹介してほしい。色や形の面白さの絵本、言葉が楽しい絵本、物語の絵本など、少しずつ色々な世界を広げてあげてほしいと思う。子どもは自分に向けて愛情をこめて接してくれる親を見て、信じたり大丈夫だと思うことができるようになる。

子どもたちに絵本を読んであげることは、人間としての基本的な信頼を育てることにつながると思う。絵本を読むということは大人にとっても楽しいこと。絵本を読むことで子どもがにこっと笑う時は、大人にとっても幸せな瞬間だ。ぜひ子どもたちと絵本を楽しんでほしいと思う。人生のうち、5～6年しか、親子でゆっくり過ごせる時はない。ぜひその時に絵本を楽しんでほしい。



絵本が完成するまでの過程や作家の言葉、田中氏が実際に保育園の子どもたちと過ごした経験等、多くのエピソードを交えて、子どもと絵本を読む楽しさを語っていただきました。赤ちゃんの時から絵本に触れることの大切さを感じられる会となりました。

田中 秀治（たなか ひではる）氏

1946年、静岡県に生まれる。1970年、福音館書店に入社。未就学児向けの月刊科学絵本『かがくのとも』、月刊物語絵本『こどものとも』、小学校低学年向け月刊誌『おおきなポケット』などの編集に携わる。特に、1977年創刊の2～3歳児向け『こどものとも年少版』、1995年創刊の0～2歳児向け『こどものとも0.1.2』は創刊号から携わり、主に低年齢の子どもたち向けの絵本を編集してきた。元福音館書店専務取締役。

現在は、これまでの編集経験をもとに幼稚園、保育園、図書館等で、子どもたちにとって本を読んでもらう喜びや大切さについて講演を行っている。

◆◆◆主な編集作品◆◆◆

『こどものとも0.1.2』
創刊号



『でてこいでてこい』
はやしあきこさく
(福音館書店)



『まあちゃんのながいかみ』
たかどのほうこさく
(福音館書店)



『きんぎょがにげた』
五味太郎作
(福音館書店)

他 多数

図書館で活躍する！ ボランティア紹介



身近で親しみやすい図書館づくりを目指して、多くのボランティアの方々に図書館事業へ参加・協力いただいています。現在、85の方が図書館のボランティアとして活躍しています。その活動内容を紹介します。

＜館内ボランティア 平成16年2月～＞

茶色のエプロンと「図書館ボランティア」バッジを着けて、全館で活動しています。

書架整理や、図書の修理、映画パンフレット・チラシの整理が、主な活動内容です。その他にも、書架の耐震シートの張り替えや、館内の緑化活動、催し物の会場設営にも協力いただきました。

また、年に数回ボランティアミーティングを開催し、図書館職員とボランティアとのコミュニケーションの場を設けています。日頃の活動の情報交換を行うだけでなく、図書館の見学や、講習などを開き、図書館への理解を深めています。



書架整理の様子

＜宅配協力員 平成13年2月～＞

ハンディキャップサービスの1つとして、障害や高齢、病気などの理由で来館が困難な方へ、図書の宅配サービスを行っています。ボランティアの宅配協力員が、このサービスを支えています。

宅配協力員は、来館が困難な利用者の希望に応じて、図書館と利用者のお宅を行き来し、貸出・返却資料を運びます。専用のバッグに資料を入れて、利用者のプライバシーを守っています。



説明会の様子

●ボランティア説明会

毎年5月頃に開催し、館内ボランティア・宅配協力員の新規希望者を募集しています。平成27年度の説明会では、ボランティア活動についての講演と、ボランティアの方による活動紹介を行いました。説明会后、職員との面談を経て、13人が新たに加わりました。

平成28年度のボランティア説明会は、5月26日（木）に開催予定です。詳細は、ポスター・チラシ・図書館ホームページでご案内します。

平成27年度 利用者懇談会を開催しました

平成27年11月5日（木）に文化会館たづくり10階学習室、同月19日（木）に図書館富士見分館集会室で、午後2時から2時間余にわたって実施しました。

「マンガ DE 図書館」をテーマに、図書館がマンガ資料をどのような視点で選び、所蔵・提供しているかを説明、意見交換しました。マンガに興味を持って参加された方ばかりで、子どもの頃に少年・少女マンガを読んだ思い出、子どもにマンガを読ませてよ



文化会館たづくり10階学習室

いか子育て中に迷った経験、魅力的な作品が多いので大人の読書会でマンガを積極的に取り上げていきたいなど、様々な立場からの興味深いお話を伺うことができました。

また、図書館のマンガ及びマンガ関連資料の充実を評価するご意見や、直接手に取れるマンガを増やしてほしいなどのご要望もありました。

いただいたご意見・ご要望を、今後の図書館サービスに活かして参ります。



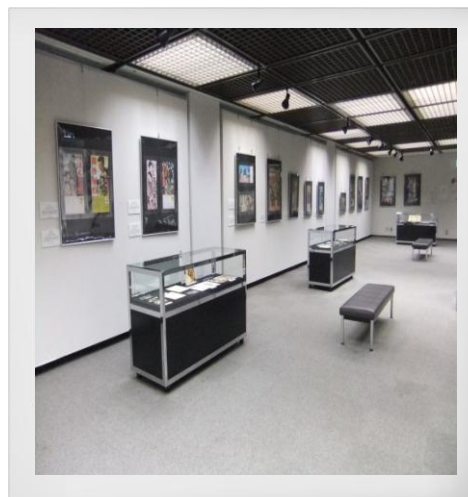
映画の図書展

調布市制施行60周年 日活・大映特集
～60年前公開の映画を振り返る～



平成28年3月9日（水）から13日（日）まで、調布市と（公財）調布市文化・コミュニティ振興財団主催で「調布映画祭2016」が開催され、図書館は、文化会館たづくり2階北ギャラリーで「映画の図書展」を行いました。

所蔵資料の中から、調布市が生まれた頃に公開された映画（「嵐を呼ぶ男」など）のポスターなどを多数展示しました。また「市川崑監督生誕100年記念特集」として、ポスター・撮影台本・パンフレットなど、普段は書庫にある、貴重な映画関係資料も展示し、多くの来場者にご覧いただきました。



高山彦九郎の旅日記の調布

井上明枝

甲州街道の宿場だった布田宿について、江戸時代後期に活躍した高山彦九郎も旅日記『丁酉春旅』に書いています。彦九郎は上野国新田（群馬県）の郷土の家の生まれ。勤皇の志が厚く、幕府の実権を握った老中・田沼意次のワイロ政治と不正横行に怒って正義を広く訴えた人です。外国の脅威と海防の重要性に警告を発した林子平、蒲生君平とともに寛政の三奇人として有名です。

『丁酉春旅』は祖叔父（祖父の弟）の石井政重が身延山詣に旅立つとの便りに「まさか出家するのではないか」という祖母の心配を受けて政重の行方の跡を追った彦九郎の旅日記です。

安永6年（1777）丁酉の春3月27日に出発し中山道箕田で馬に乗り浦和宿へ。翌日、戸田の渡しで馬を返し江戸入り。政重が仕えた小日向（文京区）の旗本・高林又十郎家を訪れて話をきくと「政重に剃髪の意志はなかった」とのこと。四谷で雨となり新宿で日が暮れたが、政重が立ち寄ったかも知れぬ日蓮宗妙法寺がある堀ノ内へ。寺僧はよく似た老人が訪れたという。一泊する。翌29日も雨。大宮八幡、永福寺を経て甲州街道へ。高井戸、烏山、給田、仙川を過ぎ、滝坂を下って金子橋を渡り、布田宿に入りました。

政重が雨で滞留も考えて日蓮宗蓮慶寺(写真)へ行く途中、茶店で話しこんでいる政重を見つけました。彦九郎の顔を見て驚く政重に「みんな心配しています」と、追ってきたいきさつを説明。「これよりは旅の荷物を負って供します」と申し出ます。ところが政重は「出家のことは迷ったが今は思いとどまった。心配せんでいい。親類に知らせて安心させてやってくれ」と同行を断ります。午後2時過ぎ雨が上がり、蓮慶寺に詣でたあと下布田の宿・夷屋に戻った政重は旅支度して身延山へ。彦九郎も送っていったが「もう帰れ」と言われ夷屋に戻り、その夜は宿泊。主人の茂右衛門に政重の様子などきいた。「とくに変わったことはありませんでした」と答えたあと、「身延山は険しい山で道も長く、お年寄りにはきついところ。ご修行



の志のままに任せてよいか心配です」と言う。彦九郎は、やはり身延山まで見届けなければならないと決心します。

慰め顔の夷屋さんに、話のあと「日は高いのでアユ釣りでもご覧になったら」と勧められ、甥の孫次郎と一緒に多摩川へ。釣人はニワトリの毛をつけて小鮎を釣り、江戸へ出して売るといふ。この日は不漁だったが釣り場は名所だとのこと。その夜、茂右衛門と酒を汲みかわし「甚だ楽し。祖叔父、佛に迷い入りたまいて、止め申す旅に、かかる楽しみ、よき心地して嬉しく思い侍る」と記しています。

翌日、布田宿を出立して府中押立村から町に入り武州総社の六所宮（大國魂神社）に参拝、八王子宿を経て身延山へ祖叔父を追いつき続けます。帰途は東海道路に出て江戸へ。5月4日で旅日記は終わっています。約40日の旅でした。

今の旧甲州街道は宿場の面影がほとんど消えてビル化が進んでいますが、狭い町並を歩くと昔の人々も通っていた街道だったんだと思います。

刊行物番号

2015-249

図書館だより 第239号

平成28年3月25日発行 [市内印刷]

発行 調布市立図書館

〒182-0026 東京都調布市小島町2-33-1

TEL 042-441-6181

<http://www.lib.city.chofu.tokyo.jp/>